

目的 Framingham調査以来HDLの抗動脈硬化作用が注目されHDLコレステロール(HDL-C)測定の重要性が報告されてきたがHDLの中心にあるコレステロールよりも表層にあり生物学的活性を営んでいるアポ蛋白ヤリン脂質(PL)を測定することにより高い意義を認める見方もある。そこでHDL-リン脂質(HDL-PL)測定の意義を問うため種々疾患260例と正常者187例を測定し検討した。

方法 ポリアニオン沈殿法でVLDL, LDLを分離除去した上清に酵素法のPL測定を適用。

結果 1)各種疾患との関係：虚血性心疾患(IHD)、高脂血症などでHDL-Cと並行して低値を示す。IHDではその急性期に低値を示し回復期に上昇する。図のように $(VLDL+LDL)/PL/HDL-C$ の比は、正常群に比しIHDで高く、HDL-CにおけるAtherogenic Index同様この比とIHD成立の間に正の相関があることを示唆している。2)加齢による影響：正常群でHDL-C同様男子より女子の方がやや高値を示すが加齢による影響を認めなかった。3)薬剤の影響：HDL-Cと並行してサイアサイド系降圧剤や $\beta$ blockerで低下し $\beta$ -stimulantや副腎皮質ステロイドで上昇するなどの影響が認められた。以上のことよりHDL-PLはHDL-Cとよく並行して変動するので測定の意味は大きいと思われる。

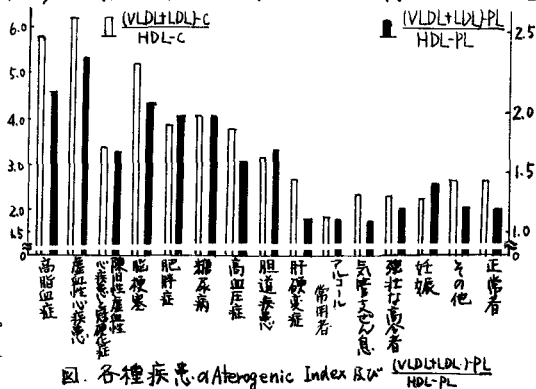


図. 各種疾患のAtherogenic Index  $(VLDL+LDL)/PL$  vs  $(VLDL+LDL)/C$